

# 市長マニフェストの取組状況（令和5年度の主な実績）

※実施した各事業は17のSDGsのゴールと紐づけています。

## ビジョン1 『ひと』を育む

<p>安心して子どもを産み、育てることができる環境づくり</p>	<p>母子保健と子育て支援の一体的・総合的な実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○育児不安の解消や虐待の予防を図るため、妊娠、出産、子育てに関する各種の相談に応じ、個々の事情に寄り添った「支援プラン」を作成し、包括的かつ継続的な支援を行いました。</li> <li>○妊娠期から子育て期の切れ目ない伴走型支援において、母子保健施策と子育て支援施策の両面から相談支援を行い、安心して妊娠・出産・育児ができる相談体制の充実を図りました。</li> </ul>	
	<p>産後ケアの拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○産後の育児を支援する「産後ケア事業」において、「宿泊型」、「通所型」、「訪問型」による支援を実施し、母子の心身のケアや育児サポートを行いました。</li> </ul>	
	<p>保育体制の強化と質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国の幼児教育・保育の無償化の対象ではない3歳未満児の保育料を引き下げ、子育て世帯の経済的負担の軽減を図りました。</li> <li>○保育の質を高めるため、公立保育所において、園児の登降園管理や保護者との連絡、保育に関する計画・記録等の業務のICT化を図り、保育所業務を効率化しました。また、私立保育園等には、ICT化に必要な費用の一部を補助しました。</li> <li>○保育所等において、医療的ケア児を受け入れるため、看護師の配置や保育士の研修等を行い、必要な体制を整備しました。</li> <li>○認定こども園への移行に対し、施設の整備に必要な費用の一部を補助し、幼児教育・保育環境の充実を図りました。</li> </ul>	  
	<p>子どもの貧困対策の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの貧困対策を推進するため、各種支援策や相談窓口を一覧にまとめたパンフレットを作成しました。</li> <li>○市内で子ども食堂や子ども宅食を運営する団体に、その運営経費の一部を補助し、子どもの居場所づくりや見守り体制づくりを支援しました。</li> </ul>	  
<p>地域が誇る資源を活かした教育環境づくり</p>	<p>「かかみがはら寺子屋事業」のさらなる拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒一人ひとりが、将来の夢を思い描き、その可能性を伸ばすことを目的に、新たに「夢チャレンジ事業」を開始し、170名の児童生徒が夢に向かって一歩踏み出す力を学びました。</li> <li>○「ものづくり見学事業」において、産業に関する見学コースを5コース開催し、児童生徒が市内ものづくり企業の見学を通して、ものづくりの魅力や働くことの大切さを学びました。また、マスコミコースでは、児童がケーブルテレビ局において、スタジオ見学、カメラ体験、編集体験などを行いました。</li> <li>○地域の人材を活用して実施する「ららら学習室ホップ・ステップ・ジャンプ」において、児童生徒に学習の基礎基本や学習習慣の定着を図りました。</li> </ul>	  

		<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍で中止やオンライン開催となっていた福祉体験学習を対面開催し、児童生徒が福祉施設の見学や福祉の仕事体験を行いました。</li> <li>○「オオサンショウウオ調査隊2023」を開催し、児童生徒が木曾川に生息する特別天然記念物「オオサンショウウオ」の生態や特徴などを学びました。</li> <li>○子どもたちが職業観を育み、自分の将来像について考えるきっかけとなるよう、小学校4～6年生を対象とした「子ども起業家育成講座」を開催しました。</li> </ul>	
	コミュニティ・スクール事業の推進	○全中学校区において、学校と地域をつなぐコミュニティ・スクール事業を推進し、地域の方の学校教育への参加、子どもたちの地域参画の促進、学校間の連携の強化を図りました。	  
確かな学力と豊かな人間性を育む教育環境づくり	小中高一貫の特別支援学校の建設	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和7年4月の(仮称)かかみがはら支援学校の開校に向けて、校舎の建設工事に着手しました。</li> <li>○誰もが住み慣れた地域で安心して学べることができ、愛される学校づくりに向けて、校名案の公募、保護者や地域の自治会長などとの座談会などを行いました。</li> </ul>	  
	地域の核となる学校の存続と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校施設のあるべき姿や整備の進め方を示す学校建替基本方針の策定について検討を行いました。</li> <li>○小規模学校の良さを活かした特色ある教育を実践する「小規模特認校」に指定している稲羽東小学校と緑苑小学校において、異学年交流に取り組み、学年の枠を超えた人間関係の中で児童一人ひとりの個性を育む機会を創出しました。</li> </ul>	 
	I C T機器を活用した学習指導の充実	○デジタル連絡システム「スマート連絡帳」を導入し、学校と保護者間の連絡手段をI C T化し、学校教職員の業務と保護者への連絡の効率化を図りました。	
	不登校対策の強化	○学校へ行きづらさを感じる児童生徒が、安心して活動できる居場所を提供するために、教育支援センター「あすなろ教室」・「さくら」において、社会的自立に向けた支援を行いました。令和5年度には、「学びの部屋ココカラ」を開設し、自分のペースで学習を行うことを通して、社会的自立を支援しました。	  

## ビジョン2 『暮らし』を守る

<p>人生を充実させる「健やかで元気なまち」づくり</p>	<p>防災機能を併せ持つ新総合体育館の建設</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様化するニーズに応え、より多くの市民に愛される新総合体育館を目指し、各種スポーツ団体との意見交換会を行い、詳細な仕様を検討しました。</li> <li>○事業手法として、民間事業者の資金やノウハウを活用し、市民サービスの向上とコスト削減を図るPFI手法※の導入を決定しました。</li> <li>※PFI手法：公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金やノウハウを活用して行う手法</li> </ul>	
<p>地域で安心して暮らせる環境づくり</p>	<p>市民公園リニューアル整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民公園周辺エリアを拠点に活動するまちづくり団体、都市再生推進法人※、公園利用者等と、賑わいを創出する公園の利活用について、意見交換を行いました。</li> <li>※都市再生推進法人：都市再生特別措置法に基づき、市町村が指定し、まちのエリアマネジメント(公共空間の整備・管理、情報発信、イベント実施など)を担う法人</li> </ul>	
<p>地域で安心して暮らせる環境づくり</p>	<p>フレイル予防事業の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ウォーキングによる高齢者のフレイル※予防のため、「かかみがはらフレイル予防ウォーキング事業」を実施し、約800名が参加しました。また、ウォーキングアプリの使用方法などを説明するため、高齢者向けのスマホ教室を開催し、高齢者のICT利活用の促進を図りました。</li> <li>※フレイル：加齢により心身の機能が衰え、健康な状態と要介護状態の間の段階のこと</li> <li>○「通いの場等におけるフレイルチェック事業」を実施し、ボランティアハウスなどの通いの場に、保健師や管理栄養士などが出向き、フレイルチェックやフレイル予防の普及啓発、健康教育・相談などを行いました。</li> <li>○市と市民が一体となってフレイル予防に取り組むため、「フレイル予防サポーター養成研修」を実施し、地域でフレイル予防の普及啓発に協力していただく市民サポーターを養成しました。</li> <li>○フレイル予防の重要性を市民に広く周知するため、中部学院大学と連携してフレイル予防講演会を開催しました。</li> </ul>	
	<p>地域包括ケア体制の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症の方やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、その外出支援として、「認知症者見守りシール配布事業」と「認知症者個人賠償責任保険加入事業」を実施しました。また、障がい児者の外出支援のため、「障がい児者見守りシール配布事業」を実施しました。</li> <li>○認知症高齢者や知的・精神障がい者など、判断能力が不十分な方の権利を守るため、成年後見支援センターにおいて、成年後見制度の普及啓発や相談支援を実施しました。</li> <li>○市民後見人養成講座の修了者が、より専門的な知識を得るためのフォローアップ研修を実施し、岐阜県初の市民後見人が誕生しました。</li> </ul>	

	ひとり親家庭への支援	<p>○ひとり親家庭の高校生の通学費や、養育費に関する公正証書などの作成に必要な経費の一部を補助しました。令和5年度からは、通学のための自転車の購入費について補助対象とし、支援内容を拡充しました。</p> <p>○ひとり親家庭において、親が就労に必要な技能や資格を取得する場合などに給付金を支給し、ひとり親家庭の自立の促進を図りました。</p>	  
	救急医療体制の維持	<p>○市民病院的役割を担っている東海中央病院における救急医療体制の維持に対して支援を行いました。また、その高度医療体制を維持するため、高額医療機器購入に対して支援を行いました。</p>	
様々な災害に備える安全・安心づくり	新庁舎の完成	<p>○低層棟・駐車場・外構の整備が完了し、令和5年11月6日に、様々な災害対策機能を備え、市民の安全安心を守る拠点となる新庁舎が全面オープンしました。</p>	  
	防災・災害対策の強化	<p>○災害時における多様な避難者に対応するため、ゼリー飲料などの食べやすい食料を新たに備蓄しました。また、一次避難所となる小中学校18校のうち、下水道が整備されている14校で利用できるマンホールトイレを、鷺沼朝日町防災備蓄倉庫に配備するなど、避難所のトイレ環境の充実を図りました。</p> <p>○地域防災力の向上や市民の防災意識の高揚を図るため、各家庭における「シェイクアウト訓練」と一次避難所の開設等を行う「地域防災訓練」を実施しました。</p> <p>○地震や豪雨災害を想定し、災害時の初動対応力の向上を図るため、災害対策本部訓練を実施しました。また、災害対策本部訓練に合わせ、鷺沼朝日町防災備蓄倉庫において、物資の搬入・搬出要領の確認を行う「地域内輸送拠点訓練」や社会福祉協議会との連携による「災害ボランティアセンター開設訓練」を実施しました。</p> <p>○将来の防災リーダーを育成するため、小学校の4～6年生を対象に、備蓄品の活用方法などを体験しながら学ぶことができる「防災教室」を開催しました。</p> <p>○外国人市民が災害発生時の避難行動や避難先など、平時から必要な情報を把握できるよう、洪水ハザードマップを多言語化し、市ウェブサイトに掲載して周知しました。</p> <p>○大雨による内水浸水被害を軽減するため、山の前雨水調整池と鷺沼古市場第3雨水幹線の整備を進めました。</p>	  
	消防団活動の支援強化	<p>○地域の消防力・防災力を強化するため、消防団の車庫・車両・小型動力消防ポンプの計画的な更新や岐阜県消防学校の短期研修への派遣など、消防団活動の環境整備や団員の技術向上を図りました。</p> <p>○消防団員の処遇改善として、出勤報酬の支給対象を拡充しました。</p>	

## ビジョン3 『まち』を支える

<p>「ならでは」、「らしさ」を活かしたまちの魅力づくり</p>	<p>東京オリンピック・パラリンピックの機会を活かした事業の実施</p> <p>木曽川を核とした観光施策の検討</p> <p>特産品「ニンジン」を活かした事業の実施</p>	<p>○東京2020大会をきっかけに、ホッケー競技のさらなる普及・振興を図るため、国際ホッケー連盟(FIH)公認大会である、「ホッケージュニアワールドカップ女子アジア予選大会」を関係団体と協力して開催しました。</p> <p>○木曽川中流域の自治体や関係機関などで構成する「木曽川中流域観光振興協議会」において「日本ライン・KISOGAWA River to Summit 2023」を開催しました。各務原市と犬山市の両市では、船上から日本ラインや国宝犬山城の景色を眺めながら食事ができる遊覧船を企画し、両市の魅力発信に努めました。また、その出船場所の鵜沼波止場では、市内の飲食店によるブースを設け、本市への誘客を図りました。</p> <p>○JA、商工会議所、東海学院大学、市で構成する「各務原人参ブランド推進連絡協議会」を中心に、各務原にんじんのブランド化、地産地消、消費の拡大を図るため、中高生のための料理教室、にんじん弁当の開発・販売、小学校における出前講座などを実施しました。</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p> <p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>
<p>充実した生活を支える産業活力づくり</p>	<p>時代に求められる新たな雇用対策事業の推進</p>	<p>○市内企業への就職を促進するため、近隣の大学や高校と連携し、市内企業の見学会や学内での企業説明会を実施しました。</p> <p>○市内企業を対象に、女性や高齢者、障がい者が活躍できる会社づくりを学ぶためのセミナーを開催し、誰もが働きやすい環境づくりを支援しました。</p> <p>○民間企業が主催する就職マッチングイベントにおいて、出展ブースを確保するなど、市内企業の参加を支援しました。</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>
<p>コロナ禍を乗り越えるための企業活動支援</p>	<p>コロナ禍を乗り越えるための企業活動支援</p>	<p>○市内中小企業の事業継続に必要な認証資格の維持や、事業再構築、DX※、GX※に必要な設備投資の一部を補助しました。</p> <p>※DX(デジタルトランスフォーメーション):デジタル技術を用いて、社会や人々の生活をより良い方向に変革すること</p> <p>※GX(グリーントランスフォーメーション):温室効果ガスを発生させる化石燃料から、太陽光発電などのクリーンエネルギー中心の社会に変革すること</p> <p>○アフターコロナを見据え、新たな販路の開拓や自社技術を活かして行う新ビジネスなどに要する費用の一部を補助したほか、新製品開発を通じて企業変革を成し遂げた企業を招いたセミナーを開催し、企業力の向上につながる支援を実施しました。</p> <p>○中小企業のエネルギー経費に対する補助を行い、エネルギー価格高騰の影響により、厳しい経営環境に置かれている市内事業者を支援しました。</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>
<p>便利で快適に暮らせる都市基盤づくり</p>	<p>新たなデマンド型交通システム「チョイソコかかみがはら」運行エリア拡充</p>	<p>○令和5年10月より、鵜沼南エリアの運行範囲をさらに拡大し、令和5年度は、全エリアで延べ10,011名の利用があり、昨年度に比べ、延べ4,278名の利用が増加しました。</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>

	<p>広域幹線道路整備の推進</p>	<p>○交通の利便性・安全性を向上させ、広域ネットワークや良好な市街地の整備を推進するため、市西部(大野町～那加岩地町)を縦断し、岐阜市へ至る都市計画道路日野岩地大野線の整備を実施しました。</p> <p>○都市計画道路岐阜鵜沼線などの広域幹線道路について、県施工区間の早期整備促進を県に要望しました。</p>	
	<p>新たな土地の有効活用の推進</p>	<p>○各務山の採石場跡地の有効活用を図り、雇用機会の創出と地域経済の発展のため、各務原市土地開発公社が主体となり、各務山土地造成事業を実施し、6区画中5区画の工業用地の引渡しと1区画の募集を行いました。</p> <p>○新たな工業団地へのアクセス向上と市内交通の円滑化を図るため、各務山を南北に縦断する道路の整備を行いました。</p> <p>○「木曾川の自然を体感でき、サイクリングや多様な催しを通じ、地域を超えた人々の交流が生まれる河川敷」をテーマに、Park—PFI制度※により、民間企業のノウハウやアイデアを活用し、「木曾川前渡南公園」の整備を進めました。</p> <p>※Park—PFI制度：都市公園法に基づく「公募設置管理制度」で、公募により選定された民間事業者により、公園を整備・管理運営する制度</p> <p>○JR鵜沼駅広場と鵜沼空中歩道を「歩行者利便増進道路(ほこみち)※」に指定し、お土産マルシェやキッチンカーの出店など、新たなにぎわいの場を創出しました。</p> <p>※歩行者利便増進道路(ほこみち)：令和2年の道路法改正により導入された、にぎわいのある道路空間創出のための道路の指定制度</p> <p>○JR蘇原駅前広場を整備し、ロータリー、ふれあいバスの停留所、250台収容できる駐輪場、バリアフリーに配慮したトイレのほか、人が交流できるモニュメントベンチを設置しました。</p>	 

# プラス 『未来を見据えた』まちづくり

<p>笑顔があふれる元気なまちへ</p>	<p>新型コロナウイルス感染症に伴う支援事業の継続実施</p>	<p>○エネルギー価格・物価高騰などへの経済対策として、市民生活を支え、市内経済活動の回復を図ることを目的に、プレミアム率100%の「各務原市プレミアム付き商品券2023(ららちチケット3)」を発行しました。</p>	 
	<p>「人とのつながり・地域とのつながり」を感じられる事業の推進</p>	<p>○まちづくりの担い手を育成するため、若者を対象とした体験型ワークショップを開催し、まちづくり活動に踏み出すきっかけや仲間づくりの場を創出しました。</p> <p>○全国的に活躍するまちづくりの専門家を講師に招き、那加地区の魅力について考えるイベント「那加デザインミーティング」を開催し、官民連携によるまちづくりの促進を図りました。</p> <p>○外国人親子を対象とした日本語教室を夏休みに開催し、日本語の学習の機会が少ない外国人親子に、日本語の勉強の楽しさや日本での生活の基礎知識を学ぶ場を提供しました。</p> <p>○性的少数者への理解を深めるため、人権講演会や職員向け研修会、人権パネル展を開催しました。</p> <p>○少子化対策としての婚活支援のため、令和5年7月に、関市、美濃加茂市とともに、マッチングアプリ運営会社と連携協定を締結しました。その連携事業として、「恋活・婚活オンラインセミナー」を開催し、結婚を希望する人たちに、恋活や婚活を進めるためのアドバイスを行いました。</p> <p>○岐阜かかみがはら航空宇宙博物館(空宙博)に新たに展示した「F-4EJ改ファントムII 431号機」の企画展を開催し、期間中、52,360名が来場しました。</p> <p>○民間活力を活用するため、福祉や防災、学校教育などの分野で、民間企業や大学などと協定を締結し、官民協働でのまちづくりを進めました。</p> <p>○「健康のつどい」をリニューアルし、「慢性腎臓病(CKD)のことを知ろう～学ぼうCKD、守ろう腎臓～」をテーマとする「健康フェスティバル」を開催し、専門家による「慢性腎臓病と健康長寿」に関する講演のほか、味噌汁の塩分比較体験やフレイルチェック、健康に関する各種相談などを実施しました。</p>	      
	<p>SDGsを意識した取り組みの強化</p>	<p>○SDGsに先進的に取り組む企業の取組を学ぶとともに、企業・団体同士の新たなつながりを創出し、SDGs達成に向けた取組を推進するため、第2回かかみがはらSDGsパートナー交流会を開催しました。</p> <p>○食品ロスを減らすために、市内商業施設での普及啓発イベントや食品ロス削減料理教室を開催しました。また、家庭で余っている食品を集め、必要としている団体等に寄附する「フードドライブ」について、実施団体を紹介するなど、その普及啓発に取り組みました。</p>	    

	<p>多角的な空き家対策事業の推進</p>	<p>○空き家の有効活用や移住定住の促進による地域活性化を図るため、空き家を売りたい人と利用したい人をつなぐ「空き家バンク」を運用し、3件(売買1件、賃貸借2件)の空き家活用につながりました。賃貸借契約のうち1件は、借主負担DIY型賃貸借契約による「DIY型空き家リノベーション事業」※を実施しました。</p> <p>※DIY型空き家リノベーション事業:空き家を活用したい所有者と、空き家をDIYにより自分らしい暮らしの場としたい借主のマッチングや契約までの流れを各務原市、民間企業、大学、金融機関の協働によりサポートする事業。</p> <p>○空き家の発生予防や適正管理を推進するため、相談会やセミナー、出前講座を開催しました。</p>	 
	<p>通学路のさらなる安全・安心の確保</p>	<p>○通学路交通安全プログラムに基づき、児童の安全安心を確保するため、教育委員会、学校、道路管理者、警察が連携して、各小学校区で「通学路合同安全点検」を行い、カラー舗装やグリーンベルト、防護柵の設置などを行いました。</p> <p>○民間事業者と防犯カメラなどの設置・運用に関する協定を締結し、鵜沼第一小校区と鵜沼第三小校区の通学路に防犯カメラを設置しました。</p>	 
	<p>デジタル化の推進</p>	<p>○パソコンやスマートフォンからオンライン申請が可能な手続きを72項目から132項目に拡充し、デジタル化による市民サービスの向上を図りました。</p> <p>○市役所の内部業務の効率化やペーパーレス化を促進するため、可搬性の高い業務パソコンを導入するとともに、庁舎内に無線LAN環境を整備しました。</p>	  



●SDGsとは

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。